



2020(令和 2)年度

事業計画

社会福祉法人豊中きらら福祉会

中長期経営計画 基本工程表(平成28年度～平成37年度)

私たちは、地域の人々と共同し、民主的で開かれた経営、運営を目指します

項目	内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	実施機関
本部機能の強化	組織体制の整備											中長期・事務局
福利厚生の充実	働きやすい職場環境づくり											中長期・事務局・組合
	メンタルヘルス窓口の設置											メンタルヘルス委員
	ストレスチェックの実施											メンタルヘルス委員
地域貢献活動の取り組み	地域貢献の定義～実践											中長期・事務局

人事の窓口を奥田施設長(第2工房「羅針盤」)に一本化。
ハローワークや人材情報誌各社、面接や見学等の連絡調整をおこなう。

職員会議や職員研修の開始時間の検討。

私たちは、障害のある人たちが必要な時に必要な制度が利用できるよう、働く場だけではなく生活の場など、地域に開かれた社会資源づくりをすすめます。

項目	内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	実施機関
計画的な人材の確保	人事担当の設置											事務局
	教育機関との連携											事務局
	クレヨン移転拡張											事務局
開かれた社会資源づくりの推進	工房モコの移転拡張											事務局
	工房「羅針盤」の老朽化											事務局
	第2工房「羅針盤」土地建物の購入											事務局
	宝山町ホームの開設											暮らしの場
	新規グループホームの開設											暮らしの場
	新規作業所の設立											中長期・事務局
災害対策の検討・強化	誰もが利用できる作業所づくり											中長期・事務局
	災害対策マニュアル等の整備											災害対策委員会
	災害時に向けての準備・対策											災害対策委員会

災害対策マニュアルに基づいて、備品や書類の準備を進む。来年度も引き続きおこなう予定。

工房モコの移転拡張:物件検討中
工房「羅針盤」老朽化:物件検討中

今年度、第2工房「羅針盤」の土地建物を購入することとなった。
今後も安定的な運営や開かれた社会資源作りの推進のため、必要に応じて購入の検討もおこなっていく。

私たちは、障害のある人のニーズや主体性、可能性を尊重した実践を目指します

項目	内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	実施機関
理念に基づいた実践	理念に基づいた総括の実施											研修委員
	理念に基づいた研修の開催											事務局
支援の統一性の確保	支援関係書類の整理・統一											虐待防止委員会
給食事業の安定化	栄養士の常勤配置											事務局
職員の連携強化	セントラルキッチン構想											事務局・中長期
	人事異動・交流の実施											事務局
実践研修の充実	職員会議での意見交換											全職員
	職員研修として1年間実施											研修委員

年度初めの職員会議にて、理事長より理念についての研修を開催する。
理念を再度意識し、実践の充実を図る。

情勢報告でのグループワークの採用や、討議提案事項で職員や職場環境の議題で検討をおこなうことで、より職員間の連携強化を図る。

私たちは、障害のある人たちに対する、いかなる差別、虐待、人権侵害も許さず、人としての権利を擁護します

項目	内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	実施機関
権利擁護の推進	虐待チェックリストの実施											虐待防止委員会
相談支援専門員の拡充	利用者の処遇改善											事務局
人権研修の実施	職員研修として1年間実施											虐待防止委員会

当事者・家族・様々な関係機関から相談があり、3名体制で対応しているが、相談件数は増える一方。
相談支援専門員の拡充をすすめるとともに、各事業所との連携を図りながら、相談者に寄り添った支援が行えるよう、努めていく

毎月虐待防止チェックリストへの記入・提出をおこない、自身や事業所毎の傾向を把握する。加えて、定期的に虐待への意識を高めることで利用者の権利擁護に努める。

私たちは、障害のある人が安心して暮らせる街づくりを、地域の人々と共同し、障害者運動を発展させながらすすめていきます。

項目	内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	実施機関
30周年設立記念事業	法人合併とクレヨン開所式											事務局
啓発活動の推進	コンサート、映画会、法人バザー等											事務局、実行委員会
啓発活動向上委員会の設置	事業部の名称変更											啓発活動向上委員会

12月には豊中市と共催で、3月には独自での映画会をおこなった。
今後も適宜運営委員を招集し、啓発活動を推進していく(延期)。

私たちは、障害のある人たち一人ひとりが豊かな生活を実感し、充実した人生が送れるよう、自らの専門的役割と使命を自覚し、絶えず研鑽を重ねます

項目	内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	実施機関
法人の歴史と障害者運動	職員研修として1年間実施											職員研修
新人基礎研修の充実	3年間の新人基礎研修を実施											職員研修・事務局
人材育成プログラムの整備	経験年数・役割別研修の実施											職員研修・事務局
情勢学習の実施	職員研修として1年間実施											職員研修

継続開催中

継続開催中

私たちは、基本的な人権が尊重される戦争のない恒久平和の実現と民主的な社会の発展を目指します

項目	内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	実施機関
平和学習の実施	職員研修として1年間実施											職員研修・9条の会

達成項目 未達成項目 継続する項目 新しい項目

令和2年度 中長期経営事業計画

1. 民主的で開かれた経営、運営のために

- 2021年度報酬改定などの制度改正に係る外的要因に対応しながらも、法人の基本理念に沿った経営をおこない、理念の具現化と中長期経営計画の着実な実行と実現を図るため、健全な財務体質を維持します。
- 労働組合とも連携・協議しながら、働きやすい職場づくりと優秀な人材の確保・育成を推進するため、労働環境を検討・整備します。
- 地域福祉の中核を担うべき法人の役割として、引き続き地域・社会貢献活動を積極的に推進します。

2. 地域に開かれた社会資源づくりのために

- 社会資源の充実のため、同業種のみならず異業種との連携・協力を通じた公益的な活動を引き続き充実させます。
- 継続課題である工房モコや工房「羅針盤」の移転拡張の実現に向け、早急に具体的な取り組みをおこないます。
- 災害等緊急時に備えるため、飲食料の備蓄の充実及び被災した後の復興計画を検討・策定します。
- 地域で求められている福祉ニーズを把握し、関係機関と連携しながら課題の解消に努めます。

3. 障害のある人のニーズや主体性、可能性を尊重した実践のために

- 人事交流を定着させ、人事異動を実施する際の基準・要綱を検討し、支援のマンネリ化や不正防止に努めます。
- 法人の理念を日常の実践の中に浸透させ、業務の振り返り際には、理念及び職員行動指針を拠り所として「その人らしさ」を支援します。
- 各委員会・各事業の連携強化を継続しておこない、法人全体として利用者のニーズの把握と実現に努めます。

4. 障害のある人たちの人権擁護のために

- 人権研修を継続し、互いの個性や違いを積極的に認め合う人権意識を高めていきます。
- 障害者権利条約の考え方を学び、地域の隅々に広げていきます。

5. 障害者運動の発展のために

- 豊中市障害者啓発活動委員会と連携し、映画「夜明け前」の上映会を開催します。
- 運動なくして社会保障の発展なしとの認識を新たに、継続した学習を深めると同時に関係機関や幅広い市民との共同を図りながら運動を大きくします。
- 「地域包括ケアシステム」や「全世代型社会保障改革」などの情勢を分析しながら、分野を超えた全国的な社会福祉施設の連携に参画します。

6. 職員の専門的役割の自覚と研鑽のために

- 実態に即した経年研修やリーダー研修に積極的に参加し、専門スキルの向上を図り良質な支援の提供を目指します。
- 安心・安全な支援を確保するため、各種マニュアルの整備と緊急時の対応に注力します。

7. 戦争のない恒久平和の実現のために

- 平和な社会があってこそその社会保障、社会福祉の発展があることを常に自覚し、9条や25条をはじめ、現憲法が定める「恒久平和」「基本的人権」をより一層確立するため、継続した学習と運動に取り組みます。

2020(R2)年度 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業計画書

種別 障害福祉サービス【生活介護型(定員14人)、就労継続支援B型(定員23人)】
 実施施設 名称 ワークセンターとよなか
 所在地 〒561-0858 豊中市服部西町5-18-5

実施期間 2020年4月1日～2021年3月31日

開所日数 253 日

	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	就労支援員	看護職員	栄養士	調理員	事務職員	運転手	機能訓練・マッサージ	嘱託医	顧問弁護士	顧問社労士	業務委託 税理士	換算人数(常勤)	年間行事	※定例月1回開催(調理実習・ハンドマッサージ)				
																		年間行事	※定例月1回開催(調理実習・ハンドマッサージ)		
従業者	正規	1	1(兼)	7	2										9.0	4月	入所式・家族懇談会				
	非正規			7		1					1				5.8	5月					
	ボランティア等 (内障害者雇用)														0	6月	保護者参加日帰り旅行・避難訓練				
	計	1	1(兼)	14	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	14.8	7月	健康診断			
	職員入退職状況				新規採用者				1名				退職者				0名				9月
利用者	身体	知的	精神	計	うち重複			認定区分	6	5	4	3	2	1	未判定	計	10月				
					身・知	知・精	精・身										11月				
	男	2	29	3	34	8	1		0	0	10	10	4	5	0	5	34	12月	保護者参加もちつき大会、年末お楽しみ会、避難訓練		
	女	2	8	1	11	2	0		0	2	1	5	2	0	0	1	11	1月			
	計	4	37	4	45	10	1		0	2	11	15	6	5	0	6	45	2月			
	平均年齢		48.0		才												3月				
授産活動報告	授産内容								利用者数(人)	職員数(人)	売上額(円)	利用者1人当たり平均工賃/月(円)	受注開始年月日								
	内職事業(就労継続支援B型)								13	3	¥880,000	¥6,410	平成12年4月1日								
	外部事業(就労継続支援B型)								15	3	¥2,050,000		平成13年4月1日								
	自主製品製造販売(生活介護)								17	10	¥780,000	¥5,010	平成28年4月1日								
	計										¥3,710,000										

ワークセンターとよなか

令和元年度は新規に3名を受け入れ、退所者は1名でした。現在の登録者は生活介護17名・B型28名（20年3月1日現在）です。利用者の年齢は幅広く、20代から70代の方が通所されています。

一人ひとりのニーズはさまざまですが、障害の程度だけにとらわれず、障害特性の理解や本人の置かれている環境やその背景を読み解く力が職員の専門性の一つとして必要になってきます。

職員連携を軸にしながら、多面的なものの見方や、学習などで視野を広げ、お互いが信用できる職員集団づくりを今後もおこなっていきたいと思います。

自主製品の販売では、定期的に販売のお誘いをうける機会があり、休日開所をして販売活動やイベント参加を利用者と一緒に行いました。利用者にとっても、対面での販売で手ごたえになることや、事業所から外への地域へつながっていくという啓発にもなっています。

また、被保護者就労準備支援事業を豊中市からの委託でおこない、生活保護世帯の方の実習先として、受け入れも行っていきます。その中には手帳を取得して、ワークセンターへ通所に至ったケースもありました。

今後の課題としては、親御さんの高齢化にともなうホームへの入居や、体力低下で外部作業に参加できなくなってくるであろう利用者への日中の過ごし方等についても、相談支援や後見人など他機関の専門機関とも連携しながら共に考えていきたいと思っています。

2020年度 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業計画書

種別 障害福祉サービス【生活介護型（定員 20人）、就労継続支援B型（定員20人）】
 実施施設 名称 工房「羅針盤」
 所在地 〒560-0052 豊中市春日町3-1-41

実施期間 2020年度4月1日～2021年3月31日 開所日数 244 日

従業者	管理 者	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	生 活 支 援 員	就 労 支 援 員	看 護 職 員	目 標 工 賃 達 成 指 導 員	調 理 員	事 務 職 員	運 転 手	作 業 療 法 士	嘱 託 医	顧 問 弁 護 士	顧 問 社 労 士	業 務 委 託 税 理 士	換 算 人 数 （ 常 勤 ）	年 間 行 事	※定例月1回開催 （誕生会・マイクロドライブ・なかまの店販売当番）		
																		正 規	非 正 規
	1	1(兼)	7	2		1									11	4月	誕生日会		
			10		2				4	1	1	1	1	1	7.5	5月	社会見学・上野いきいきフェスタ		
															0	6月	社会見学・誕生日会		
			3												2.4	7月	誕生日会		
	1	1(兼)	20	2	2	1	0	0	4	1	1	1	1	1	20.9	8月	誕生日会・野畑まつり・宮山盆踊り		
職員入退職状況					新規採用者 0 名					退職者 0 名					9月	誕生日会・国際交流フェスタ			
利用者	身 体	知 的	精 神	計	うち重複			認 定 区 分	6	5	4	3	2	1	未 判 定	計	10月	誕生日会・Sネットフェスティバル・千里キャンドルロード	
					身・知	知・精	精・身										11月	社会見学・桜井谷地区文化祭 大阪保健医療大学祭	
	男	24	1	29	54	0	0		17	14	13	5	4	0	0	18	54	12月	誕生日会・餅つき
	女	5	4	8	17	0	0		5	3	3	3	2	1	0	5	17	1月	誕生日会
	計	29	5	37	71	0	0		22	17	16	8	6	1	0	23	71	2月	誕生日会
	平均年齢		51.9 才														3月	誕生日会	
授産活動報告	授産内容								利用者数 (人)	職員数 (人)	売上額(円)	利用者1人当たり 平均工賃/月(円)	受注開始年月日						
	ガラスアート事業収入								7	4	200,000	4500円	平成18年4月1日						
	内職事業収入								26	5	550,000		平成10年4月1日						
	製菓事業収入								13	4	920,000		平成10年4月1日						
	マット・ミサンガ事業収入								8	5	270,000		平成18年4月1日						
	アロマキャンドル事業収入								8	4	100,000		平成18年4月1日						
									計	2,040,000									

工房「羅針盤」

今年度は大きく利用者数の増減はありませんでしたが、恒常的に作業スペースに余裕がなく、また今後の利用者増に対する受け入れと建物の老朽化の課題を解消するため、移転拡張のための具体的な候補地を絞り、現場職員のみならず中長期計画推進委員会においても新施設建設に向けた設計図面の検討もおこなってききましたが、残念ながら予算的な理由で断念することになりました。しかし、来年度に向けて引き続き多方面からの情報を収集し、永年の懸案であった施設建設による移転拡張を推進していきます。

実践面における職員体制では、非常勤の作業療法士を雇用したことで日常生活の中でのリハビリテーションを取り入れ心身機能の向上を図ると同時に、日々の健康管理と感染症対策に力を入れるため看護師の勤務日数と時間を増やしました。

その上で職員一人ひとりのスキルアップに向けた研修の導入や情報交換の場を積極的に設けて、利用者のニーズや安心した地域生活の実現に向けて引き続き取り組んでいきます。また、支援のマンネリ化を防止するため、第2工房「羅針盤」との人事異動を実施することで日常の「気づき」を大切に、多面的な支援を展開していきます。そのためにも職員集団の意義を再確認し、利用者だけではなく現場で働く職員にとっても孤立することなく、働きがいや生きがいを感じられる環境づくりをおこなっていきます。

また、自主製品では新たな商品の開発やパッケージの改良などの工夫を日々検討すると同時に、豊中市のふるさと納税の返礼品として登録し幅広い販売活動と販路拡大に向けた新たな取り組みをおこなっています。特に静岡県内の授産製品販売共同体からは2か月に1回100個単位で菓業の注文があり、今後も連携していきます。また、これまで培ってきた地域との繋がりを更に強化し、地元の郵便局や店舗などでも販売できるようすすめています。

生活習慣病の増加や交通事故等が後を絶たない中、高次脳機能障害をはじめとする中途障害者の人たちは増え続けています。そのような中、工房「羅針盤」ができる地域貢献活動は、障害の啓発、実践を中心とした利用者とその家族の支援、そして支援者の育成です。特に、支援者の育成では大阪保健医療大学などで利用者自身が体験を語ることによって教科書では学べない授業を学生に提供していると同時に、実習にも参加しています。また、毎年他の法人や小・中学校などの教育機関からも体験学習や講演の依頼があり、継続して取り組んでいきます。

しかし、地域や社会に貢献していくには1事業所でできることには限界があり、地域住民や他事業所、関係機関や行政などと緊密に連携して取り組んでいかなければなりません。障害の種別や程度にかかわらず、障害者権利条約の理念に沿った制度や社会の構築をすすめるためにも、実践や事業所運営だけにとどまらず、障害者運動の推進もおこなっていきます。 文責：山河 正裕

2020年度 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業計画書(案)

種別 障害福祉サービス【生活介護型(定員18人)】
 実施施設 名称 工房モコ
 所在地 〒560-0032 豊中市蛍池東町4-5-4 木田ハイツ1F

実施期間 2020年度4月1日～2021年3月31日 開所日数 240 日

従業者	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	就労支援員	看護職員	栄養士	調理員	事務職員	運転手	機能訓練・マツサージ	嘱託医	顧問弁護士	顧問社労士	業務委託 税理士	換算人数(常勤)	年間行事	※定例月1回開催(誕生会・調理実習・スポーツの日)		
																		正規	非正規
	1	1(兼)	7												7	4月	入所式・お花見		
			1		1				1	1	1				1.4	5月			
															0	6月	健康診断		
			1												0	7月			
	1	1(兼)	8	0	1				1	1	1	0	0	0	8.4	8月			
職員入退職状況					新規採用者					0名	退職者					0名	9月	避難訓練	
利用者	身体	知的	精神	計	うち重複			認定区分	6	5	4	3	2	1	未判定	計	10月	遠足・工房モコ店頭販売	
					身・知	知・精	精・身										11月	北摂ブロックなかまの交流会・インフルエンザ予防接種・	
	男	18		18	12	0	0		11	4	3	0	0	0	0	0	18	12月	ヒューマンウェーブ・年末お楽しみ会・大掃除
	女	5		5	4	0	0		3	2	0	0	0	0	0	0	5	1月	初詣・書初め
	計	0	23	0	23	16	0		0	14	6	3	0	0	0	0	23	2月	節分
	平均年齢				才												3月	避難訓練・家族懇談会	
授産活動報告	授産内容								利用者数(人)	職員数(人)	売上額(円)	利用者1人当たり平均工賃/月(円)	受注開始年月日						
	木工製品製造販売								23	8	250,000	¥3,000	平成8年4月1日						
	製菓製造販売										70,000		平成24年4月1日						
	内職作業										300,000		平成26年9月1日						
	リサイクル事業・その他										250,000		平成21年4月1日						
									計	870,000									

工房モコ

新年度は、経験のある職員 2 名が退職するので職員集団が大きく変わります。今までよりも経験豊富なものが減り、経験年数 1 年未満の職員との比率がほぼ半分ずつになります。そのため、全体の状況を見渡した上での、職員同士が連携した支援がスムーズにおこなわれるように、今まで以上に注意深く取り組んで、転倒や接触事故のないようにすることが大切です。

それには、研修の充実と共に、毎日の「振り返り」の中で、一人ひとりの職員がその日の行動や対応の具体的な説明を他の職員に丁寧におこない、意見交換を重ねることを通して相互理解を深めて協力関係を築ける事が必要であり、小さなことでも話しあえる職場環境を作れるように目指します。

利用者の増員予定はありませんが、移転に向けた取り組みを継続します。

広い場所が必要な為、場所の確保が困難なこと。また、場所の確保が可能であっても、具体的な事業の内容を知ることによって難色を示されて契約を見直すことになったりしましたが、移転先候補の地域をひろげたこと、依頼する業者を増やしたことで、さらに情報収集をおこない、希望にあった移転先を求めてあせらず取り組みをすすめていきたいと思っています。

授産活動では、新しく商品開発をおこない売り上げにつながりましたが、工賃アップを望む声を受け、現状以上に生産性のある内職も含めて新たな作業内容を検討します。

2020（令和2年）年度 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業計画書

種別 障害福祉サービス【生活介護型（定員33人）、就労継続支援B型（定員12人）】
 実施施設 名称 きらら作業所
 所在地 〒560-0081 豊中市新千里北町2-19-1

実施期間 2020年度4月1日～2021年3月31日 開所日数 248 日

従業者	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	就労支援員	看護職員	栄養士	調理員	事務職員	運転手	機能訓練・マッサージ	嘱託医	顧問弁護士	顧問社労士	業務委託士	換算人数（常勤）	年間行事	※定例月1回開催（誕生会・マイクロドライブ・なかまの店販売当番）									
																		年間行事	※定例月1回開催（誕生会・マイクロドライブ・なかまの店販売当番）							
正規	1	1(兼)	16	1		1(兼)	1(兼)	1(兼)							15.7	4月	入所式									
非正規			8		1				3	1	1				6.2	5月	北丘小さくらんぼ狩り(3年生)・北丘小対面式(1年生)・家族交流会									
ボランティア等															0	6月	素のままフェスタ(休日開所)、虹色コンサート(休日開所)									
(内障害者雇用)															0	7月	北丘小七夕交流(5年生)・前期健康診断									
計	1	1(兼)	24	1	1	1(兼)	1(兼)	1(兼)	3	1	1	0	0	0	21.9	8月	北町みんなで楽しナイト(休日開所)									
職員入退職状況					新規採用者					1名					退職者					名					9月	厨房班戸外活動(休日開所)
利用者	身体	知的	精神	計	うち重複			認定区分	6	5	4	3	2	1	未判定	計	10月	インフルエンザ予防接種								
					身・知	知・精	精・身										11月	なかまの交流会、障害者登山[BBQ](休日開所)								
	男		27		27	13	1	1		15	8	0	1	2		1	27	12月	千里ふれあいフェスタ(休日開所)、年末お楽しみ会、厨房班大掃除忘年会(休日開所)							
	女	1	21	2	24	7	3	3		12	3	1	6	0		2	24	1月								
	計	1	48	2	51	20	4	4		27	11	1	7	2	0	3	51	2月	後期健康診断							
	平均年齢			38.4	才													3月	大阪成蹊短大実習、遠足、避難訓練							
授産活動報告	授産内容								利用者数(人)	職員数(人)	売上額(円)	利用者1人当たり平均工賃/月(円)	受注開始年月日													
	配食サービス事業(就労継続支援B型)								12	5	7,700,000	¥17,800	平成16年4月1日													
	自主製品製造販売(生活介護)								31	15	870,000	¥4,650	平成10年4月1日													
	内職作業(生活介護)								8	3	10,000		平成16年4月1日													
									計		8,580,000															

きらら作業所

昨年度は4月に1名の新入所者の受け入れとなり、退所者は1名でした。現在の定員数に変更はなく、登録者数は生活介護39名、就労継続支援B型12名の合計51名です(2020年2月末現在)。年度替わりで施設長が変わり、現場の職員構成にも変化がありました。(退職者4名・新規採用者7名)今年度は新たに新卒採用の職員が1名加わります。新しい職員集団の中で、相手に伝わるコミュニケーションに努め、互いを知り認め合える職員集団づくりを目指し、グループホームのバックアップ施設として、スムーズに連携・協力できる職員体制を整えます。

実践においては職員集団としての話し合いを大切に、共通の支援目標のもと取り組みます。そしてそれらを充実させていくために、職員の学ぶ機会を保障できるよう労働環境の整備にも努めます。

日中活動においては、安心・安全に事故なく活動できるよう、利用者の変化やニーズに合わせた環境整備、及び介助や支援をおこないます。また、北丘小学校との交流や、地域と一緒に取り組むイベントにも引き続き取り組みます。

ご家族や各関係機関との連携を丁寧に取り組み、作業所内外問わず安定した生活が送れるよう支援します。

利用者の健康管理、感染症予防及び感染拡大防止に努めます。

近年、ご家族の高齢化やご本人の加齢にともない、生活環境の変化がみられる利用者も少しずつ増えてきており、それらに臨機応変に対応できる力がますます必要となってきました。権利擁護の意識を念頭に、各職員のスキルアップと組織力の向上を目指します。

2020（令和2年）年度 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業計画書

種別 障害福祉サービス【生活介護型（定員18人）、就労継続支援B型（定員18人）】

実施施設 名称 第2工房「羅針盤」

所在地 〒561-0808 大阪府豊中市原田元町2-25-21

実施期間 2020年4月1日～2021年3月31日

開所日数 244 日

	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	就労支援員	看護職員	栄養士	調理員	事務職員	運転手	機能訓練シ・マッサー	嘱託医	顧問弁護士	顧問社労士	業務委託 税理士	換算計（常勤 人数）	年間行事			
																		年間行事	
従業者	正規	1(兼)	1(兼)	8	2										10.6	4月	・社会見学年2回 ・誕生日会年10回		
	非正規			10		1			4	1	1	1	1	1	7.9	5月	・街頭署名 ・花見		
	ボランティア等 (内障害者雇用)															6月	・中途障害者部会利用者交流会 ・保健医療大学実習		
				1											0.4	7月			
	計	1(兼)	1(兼)	19	2	1				4	1	1	1	1	18.9	8月	・健康診断		
職員入退職状況					新規採用者					3名		退職者				2名		9月	
利用者		身体	知的	精神	計	うち重複			認定区分	6	5	4	3	2	1	未判定	計	10月	・幸せの黄色いレシートキャンペーン贈呈式
						身・知	知・精	精・身										11月	・インフルエンザ予防接種
	男	44	5	18	67	2	0	7		10	14	7	8	3	0	19	61	12月	・もちつき大会 ・保健医療大学実習
	女	11	0	6	17	0	0	0		2	5	1	3	2	0	5	18	1月	・初詣 ・保健医療大学実習
	計	55	5	24	84	2	0	7		12	20	8	10	5	0	24	79	2月	・保健医療大学実習
平均年齢			56.6 才															3月	
授産活動報告	授産内容								利用者数(人)	職員数(人)	売上額(円)	利用者1人当たり平均工賃/月(円)	受注開始年月日						
	下請け（タオル折り・金属の組み立て等）＜生活介護/就労継続支援B型＞								25	5	550,000	¥3,900	平成23年7月						
	手芸（布ぞうり・ヘアゴム・縫製等）＜生活介護＞								8	3	390,000		平成23年7月						
	木工（日用雑貨・玩具等）＜就労継続支援B型＞								22	5	830,000		平成23年7月						
	製菓（焼きドーナツ）＜就労継続支援B型＞								9	2	1,070,000		平成23年7月						
	装飾品（ハンブプレスレット・ストラップ等）＜就労継続支援B型＞								3	2	120,000		平成24年4月						
	紙漉き（ポチ袋・カレンダー等）＜就労継続支援B型＞								12	3	380,000		平成27年10月						
								79	計	3,340,000									

第2工房「羅針盤」

登録利用者数は長期欠席者を含めると79名となりました。

各事業の定員は、生活介護18名・就労継続支援B型18名と利用定員の変更はおこなっておりませんが、昨年度のペースで利用希望者の受け入れをおこなっていくと今年度は各事業18名から20名の定員変更が予想されます。利用者の半数以上は脳血管疾患ですが、交通事故や難病による後遺障害も少なくありません。障害特性や幅広い年齢層にも視点をおいた支援体制が求められます。

人事異動に合わせて、事業所内の担当フロアの変更をおこないました。同一の環境が長くなれば、技術の向上やノウハウの蓄積が見込まれる反面、後進の育成が停滞したり、マンネリ化が問題となることがあります。このような事態を回避するためにも、年単位で事業所内でも定期的に担当者の変更をおこない新たな関係づくりやスキルアップを図っていききたいと考えています。

利用者の増加があってもサービスの質を落とすことなく、障害者の生きがいづくり社会参加の場を保証し、職員個人のスキルアップやチームワークの向上をはかり、利用者と職員がそれぞれ働くことの喜びを感じられる事業所づくりを目指していききたいと思います。

高齢期を迎える利用者も増え、現在の住居では安全に生活を送ることに困難が予想されます。これまで暮らしてきた住まいで、いつまでも暮らしたいというニーズも大切ですが、支援体制や災害時の安全など、もしもの時を想定した安心できる住環境も必要となります。

障害者・高齢者向けの公営住宅・グループホーム・サービス付き高齢者住宅など地域の資源を活用し、法人外の生活施設とも連携をはかり、安定した生活がサポートできる関係を構築する必要があります。

法人内のグループホームとの連携はこれまで同様に、日中活動の場と暮らしの場の違いに配慮した支援を心掛け、バックアップをおこない支援方法・健康状態の共有に努めていきます。

2019年度は、これまで賃貸契約だった建物・土地を家主からの申し入れにより秋ごろから購入の検討が始まり2020年2月末に購入手続きを終えました。

2011年7月に開所し、少しずつ地域のつながりも深まり、近隣こども園を対象とした木工教室・社会福祉協議会より依頼を受けて始まった布ぞうり教室、他にも学校や公民館の文化祭・まちづくり研究会の町おこしのイベントのひとつである曾根サマーフェスティバルには実行委員会として企画運営にも携わるようになりました。

今回の物件購入にあたり、提示価格と合わせて地域・環境・設備や今後の利用者の受け入れについても検討し、購入することを決定しました。この地域でしっかりと根を張り、羅針盤に通う利用者やそこで働くスタッフは勿論、地域住民のニーズにも応えられる施設づくりを目指していききたいと思います。

2020(令和2)年度 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業計画書

種別 障害福祉サービス【生活介護型(定員20名)】
 実施施設 名称 クレヨン
 所在地 〒561-0834 豊中市庄内栄町4-12-17
 実施期間 2020年4月1日～2021年3月31日

開所日数 247 日

	管理者	サービス 管理責任者	生活 支援員	就労 支援員	看護 職員	栄養 士	調理 員	事務 職員	運 転手	機 能 訓 練 ・ ジ ョ ウ	嘱 託 医	顧 問 弁 護 士	顧 問 社 労 士	業 務 委 託 士	換 算 人 数 (常 勤)	年 間 行 事	※定例開催: 毎月1回[音楽教室/誕生日会・調理実習] 1～2ヶ月に1回[防災訓練(地震・浸水・火事)]		
																		職員入退職状況	
従業者	正規	1	1(兼)	6											6	4月	入所式・花見		
	非正規			1	1				1		1				1	5月			
	ボランティア等 (内障害者雇用)														0	6月	家族交流会		
															0	7月	健康診断		
	計	1	1(兼)	7	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	7.0	8月	庄内南まつり	
職員入退職状況			新規採用者 2 名			退職者 名									9月	大阪880万人訓練			
利用者	身体	知的	精神	計	うち重複			認定区分	6	5	4	3	2	1	未 判 定	計	10月	遠足、障害者登山(休日開所)	
					身・知	知・精	精・身												
	男	2	14	1	17	2	1		3	5	9	2	1			17	12月	インフルエンザ予防接種、ヒューマンウェーブ、クリスマス会、年末お楽しみ会	
	女	1	4	2	7	1	1		2		2	2	3			7	1月	書初め、初詣	
	計	3	18	3	24	3	2		5	5	11	4	4	0	0	0	24	2月	豆まき
	平均年齢		35.9 才															3月	
授産活動報告	授産内容								利用者数(人)	職員数(人)	売上額(円)	利用者1人当たり 平均工賃/月(円)	受注開始年月日						
	内職作業(タオル)								24	7	10,000	¥2,300	平成28年1月5日						
	内職作業(包装紙)										200,000		平成31年4月5日						
	リサイクル事業(廃品/アルミ缶回収)										320,000		平成28年1月5日						
	その他事業(沖縄物産・販売等)										150,000								
								計		680,000									

クレヨン

昨年度は、年度途中を含め4名の新しい利用者が加わったことで、利用者数は21名となりました。今年度には、新たに3名の利用者が加わり、利用者数は24名となります。利用者全員が週5日利用の方ではないので、利用定員（20名）の変更をする予定はありません。

職員体制については、4月から新卒採用の方が1名入職します。その職員とは別に、正規職員1名と非常勤職員を1～2名を採用する予定です。ただ、現状の送迎体制と職員体制では、これ以上新たな利用者の受け入れが難しい状況となっています。今後も地域のニーズ等に可能な限り対応していけるように、それぞれの体制の見直し等を図っていくことも必要になってきています。

実践面については、この間利用者の数が増えてきた中で、一人ひとりの利用者を真ん中にして話し合うことができていないケースもありました。実践の中で迷った時には、法人理念や利用者のニーズに立ち返って考えていくことを意識しながら、日々の実践を行っていく必要があります。

人材育成については、改めて集団実践の重要性について考えていく必要があります。それを支えていく職員集団においては、お互いに助け合いながら働いていることを意識し、一人ひとりの力を高め合い、個々の力を発揮していけるようにしていきます。一方で、職員が専門性を高められるように、研修等に参加できる職員体制を作って積極的に参加を促していきます。参加した職員からの報告を通して学ぶ機会も作り、専門職としての役割を發揮していけるようにします。また、日々の朝終礼や会議等で、それぞれが何でも言い合える関係性作りをしていく中で、単に「非難」するだけで終わるのではなく、お互いの思いや考え等を認め合った上で「指摘」し合える風土も作っていきます。

文責：日野 聡也

障害者生活支援ステーション・ソレイユ

今年度の月平均支援時間は、重度訪問介護が380時間、移動支援が162時間、居宅介護が52時間、同行援護が50時間であり、利用者13名に対してヘルパー10名で対応しています。

重度訪問介護は主に早朝及び深夜時間帯の支援が中心で今年度も365日支援をおこなっています。移動支援は休日の支援がほとんどですが、支援に要する費用などを節約するため、支援回数を削減する代わりに1回当たりの支援時間が長時間になっているのが特徴です。なかには支援そのものを減らすケースもあります。居宅介護は主に夜間支援と通院介助が中心、同行援護は移動支援と同じく休日の日中支援となっています。

昨年度から懸案事項であった重度訪問介護従事者の増員について、スキルアップの側面からも従事者研修に対する費用面などを全面的にバックアップし、4名体制に整備することができました。このことにより、今まで以上に複数体制の支援が必要なケースについて、無理のない勤務体制を組むことができました。しかし、退職者はないものの慢性的なヘルパー不足は今年度も解消されず、引き続きハローワークや有料求人誌、そして知り合いや地域の情報などを活用して人員確保に努めていきます。

また来年度の目標として同じようなヒヤリハットを増やさないよう、年2回の研修実施の際には、事業所本位ではなく従業員全員が参加できる日程を調整、実施したことにより情報共有を強化し、支援体制の見直しや安全確保に向けた「気づき」など、より安心安全な支援をおこなうと同時に、支援に対する方向性や対応など、改めて全員が共通認識を確認します。

記録の在り方については、ヘルパー派遣状況や勤務依頼、利用者に対する月ごとの支援スケジュールについて、すべての事業の派遣状況などを取りまとめ、ヘルパー一人ひとりの勤務状況に加え、利用頻度なども一覧で容易に確認することができるよう整備します。

現在のヘルパー人員では新たな利用希望者のニーズに corres 応することができないため、居宅介護・移動支援事業者連絡会に加盟している事業所とともに連携しながら、支援の提供を調整しています。1事業所ではできなかったことでも他事業所との協力により、今後も利用者のニーズに添えるよう、関係機関とのかかわりを大切にしていきます。

利用者の多様化するニーズに対応するのはもちろんのこと、グループホームやショートステイなどの社会資源が少ない中、家族による介護負担がますます大きくなり、その分ヘルパーの役割も重要になっています。そのためにもヘルパーをはじめとする従業者のより一層の育成と増員を今後とも最重要課題に掲げていきます。

文責：山河 正裕

相談支援センターきらら

1. 地域や各事業所の身近な相談窓口として、さまざまな困り事を一緒に考え、当事者が地域で安心して生活を送ることができるように支援していきます。

◇当事者・家族との関係を構築していきながら希望する生活・ニーズの掘り起こしを行い、必要に応じて社会資源や制度の提案・調整をすすめていきます。

◇当事者の希望する生活に向けて、総合的な支援を行えるよう、当事者・家族・関係機関とともに、チームでより良い支援が行えるように努めていきます。

◇豊中市障害者相談支援ネットワーク“えん”や、きょうされん大阪生活支援センター連絡会や研修等に参加し、相談支援専門員としての知識やスキルを高めていきます。

◇ケースの共有・検討をすすめ、直面している課題について相談員一人ひとりが抱え込まず、全体で協力し合える環境を整えていきます。

2. 当事者・家族のさまざまなニーズの中から浮き彫りになった課題を豊中市障害者自立支援協議会等に発信し、社会資源の充実や施策提案等につなげていきます

◇地域生活における優先課題を行政・関係機関と連携して課題解決に向けて協議をすすめていきます。

◇地域で事例検討をすすめながら、相談支援事業所や専門機関と個々の課題を地域で支え合えるよう、連携を図っていきます。

グループホーム

グループホームは、入居者それぞれが「自分らしい暮らし」を実感できることを大切にしています。集団での生活ですが、1人ひとりの暮らしは違いますので、個別に必要な支援をしています。2018年2月、8月と続けて2ヶ所のホームを開設し、4ヶ所のホームで計26名が生活しています。知的・身体・精神障害や高次脳機能障害・難病など様々な障害の方が生活しており、年齢も20代から60代と幅広くなっています。今後も1人ひとりの障害特性や希望などに寄り添いながら支援します。

当たり前ですが、利用者も職員も1年毎に年齢を重ねていきます。今まで日常生活の中でできていた事ができなくなったり、加齢に伴う症状が出てきたり、医療にかかわる機会が増えてきました。日々の金銭管理や健康管理は日中作業所・訪問看護・居宅事業所・相談支援等の関係機関や家族・行政、後見人等と連携していきます。

利用者が安心して生活が送れるように支援していくには安定した職員体制が必要です。2020年2月末現在で、常勤職員4名（管理者含む）、非常勤職員34名ですが、すべての支援のホーム職員で対応するのは難しく、日中作業所職員に応援に来てもらっています。ハローワークや有料求人媒体で募集していますが、ほとんど応募が無いのが現状です。グループホームは24時間365日の支援になるので、引き続き安定した職員体制の確保に努めます。

近年、地震や台風、豪雨等の自然災害が頻繁に発生しています。各ホームに非常食など防災備品は備えていますが、まだまだ十分ではありません。また、新型コロナウイルスに関しては、トイレットペーパーやアルコール等の生活備品が品薄になりました。こうした近年の社会情勢を踏まえ、日中事業所と連携して必要な備蓄を整備していきます。